

第 2 2 回知床五湖の利用のあり方協議会

<議事録>

1.場所：知床世界遺産センター レクチャールーム

2.日時：平成 23 年 9 月 13 日（火） 18：00～20：30

3.出席者：別紙の通り

4.議事：

- (1) 今年度の運用状況について
- (2) 来年度以降の 5 月 9 日までの運用について
- (3) 知床五湖駐車場について
- (4) 知床五湖園地外構整備について
- (5) その他

5.配付資料：

- 資料 1 平成 23 年度ヒグマ活動期の総括と課題整理
- 資料 2 平成 24 年度開園から 5 月 9 日までの運用案一覧
- 資料 3 知床五湖駐車場の経緯と課題について
- 資料 4 五湖園地外構基本設計図面（案）
 - 参考資料 1－1～3 ヒグマ活動期立ち入り者数等データ
 - 参考資料 2－1, 2 ヒグマ遭遇情報
 - 参考資料 2－3 ヒグマ痕跡情報
 - 参考資料 2－4 2007～2011 開園から 5/9 までのヒグマ関連情報
 - 参考資料 3 当日紹介カウンターの利用実績
 - 参考資料 4 利用枠別利用率
 - 参考資料 5 北大アンケート結果より
 - 参考資料 6 知床温泉旅館協働組合としての意見・要望

議題 6. 議事概要：

環境省：挨拶

1. 今年度の運用状況について

環境省：資料 1 の説明

ウトロ地域協議会：受け付けカウンター紹介実績数とはなにか。

ガイド協議会：7月1日から31日までガイド協議会が五湖フィールドハウス内に当日の利用者に対して対応するためのカウンターを設置した。ここを介すことによって五湖をまわることができた人の数。

環境省：当日、五湖フィールドハウスに何も知らなくて来た人に対して、制度の説明とガイド事業者の案内をすることができた。フィールドハウスの職員だけでは対応が大変であるという時に、ガイド協議会が対応すると手を挙げてくれた。報告として何かあればお願いします。

ガイド協議会：6月下旬に準備して、7月頭から始めた。問題点として、急なことであったため、カウンターに入った人がガイド業について知らない人が入った。後半については登録引率者の研修生が重複してカウンターに入ることで対応できたが、前半は中々うまくいかなかった。さらに、7月前半はそもそもヒグマ目撃が頻発し、五湖地上遊歩道に人が入ることができなかった。順当にいけば利用者は延びたはず。人件費の関係で16、7万円は赤字となっており、ガイド協議会の方で負担することとなった。初年度ということもあり、まずはシステムの周知ができていない。その中で、初めての利用者に対して、五湖地上遊歩道を歩ける環境を提供できたという、結果が出せたと思う。今後は、赤字の対応が必要。植生保護期に対しては、ガイドを紹介するようにして、ヒグマ活動期においては登録引率者のみを当日紹介ができるようなシステムにしていきたい。それにより、登録引率者を目指すガイドが出てくるとよいと考え、また、技術の取得につながる。当初この制度は、ガイド事業者の為の制度と思われていたようだが、そのような制度ではないと説明する機会も欲しかった。一ヶ月間試すことができたのは意味があった。しかし、継続するためには工夫が必要。利用者に必要なものと理解していただきたい。次回の協議会までに詳しい資料を用意するので、この問題について議論していただきたい。

環境省：一ヶ月の割の利用者に残念な思いをさせないようにできた。継続していけるようにしていきたいと考えている。今後ともよろしくお願いします。

2. 来年度以降の5月9日までの運用について

環境省：資料 2 の説明

ガイド協議会：資料 2 の中の 3、4 の項目の中に除雪の必要と書かれているが、これ以外においてこの案が不可能である要因はないか。もし、地元有志等で一周分除雪作業を行う動きが出た場合、

一つの案として入れることになるか。

環境省：案として取り入れられる。

ガイド協議会：例年、小ループについての除雪は地元有志でやってきたこと。例年のことなので、この時期に来ようとする利用者はわかっていること。あり方協議会の中で説得するのではなく、利用者に説明して欲しい。今回出した資料の中では、この時期において、今まで事故があったわけではない。もっと資料を用意してもらいたい。

また、今年度制度が変更した時点で、周知させることに苦労した。開園から5月9日までについて、また来年度変更するとまた周知を繰り返さないといけない。今までのものを変える理由をもっと出して欲しい。

環境省：今の意見に対し、付け足し等ある方はいるか。

ウトロ自治会：温泉旅館組合の中でも開園から5月9日までの取り扱いについて話し合った。提出した参考資料6の中の5の項目に、記載したが、今年度と同様に今まで通りにして欲しい。変更しなければならないという実績を示してほしい。

環境省：温泉旅館組合としての意見ということか。

ウトロ自治会：私は温泉旅館組合にも所属している。話し合いをしたところ、本日の会議には出席できないが、伝えてほしいと頼まれた。

環境省：参考資料6について説明

環境省：開園から5月9日までの取り扱いについて確認させていただく。この期間については、ヒグマの活動状況を加味して期間の設定をしたわけではない。昨年度の段階から保留状態となっている段階ということでよいか。他に何か意見はあるか。

しれとこフォーラム 21：昨年度、期間の設定をする際に、全体をヒグマ活動期として設定したはず。その上で、ゴールデンウィークについては、ヒグマ活動期から外したのではないか。環境省としてその認識はないと言ったが、活動状況を元に決定したはず。

環境省：訂正を入れさせていただく。ヒグマ活動期から外したという事ではない。ヒグマ活動期とした方がよいという意見と、しない方がよいという意見の両方があったため、この期間については決めなかったということ。

しれとこフォーラム 21：厳密にはそうだが、当初はヒグマ活動期としようとしたのではないか。しかし、協議した結果ゴールデンウィークについてはヒグマ活動期にしなくても良いこととしたのではないか。

環境省：良いとしたのではなく、後で議論することにした。つまり決着の付かなかった問題を再度議論することとした。

しれとこフォーラム 21：後で議論をすると決めたことだが、本当にヒグマが出て危険ならば、閉鎖の判断の必要があったはず。今年も、過去においてもゴールデンウィークにおいて事故等問題が

あったとの事はそんなに聞いていない。その中で、現時点でわざわざヒグマ活動期にするという議論は成り立たないのでは。この時期にヒグマが出てどうしようもないからヒグマ活動期にするということならわかるが、そのような事がないのに、ヒグマ活動期にするのは理解できない。また、開園時からヒグマ活動期としてしまうと、イメージとして知床五湖は規制で入れないとの印象がされてしまう恐れがある。また、ヒグマ活動期にすることで、お金がかかるという悪評も出ている。ヒグマ活動期にするのは極力避けるようにしたい。

観光協会：一つ確認をしたい。開園から9日までの運営の変更することで、利用調整計画の変更が必要はあるのか。また、この時期にヒグマが出没しているという実績の資料を出してもらいたい。観光業としては自由利用期として運営してほしいと考えている。

環境省：開園から9日までについては、いずれにしても利用適正化計画を変える必要がある。また、審査部会で議論を進め、内容の見直しを行い、常用的に変更していきたい。

ガイド協議会：データとして示されたら、自由に利用できなくなる気がする。ガイド協議会の中では、基本的に五湖については365日、自由に使えるべきだということが相違で決まっている。ただ、ヒグマが出て危険であるということを理解し、現在の制度を認めている。ただ、少しでも長い期間利用できるようにしたい。また、できれば多くの一般の方に利用してもらいたい。

ウトロ地域協議会：現段階では結論は出ない。これから時間をかけて考えていくようにすればいいのでは。

環境省：本日中に結論を出すわけではない。ヒグマ対策を行う側からの意見はありますか。

知床財団：リスクはなくなる。今まで、リスクを無くすために閉鎖をするという手段をとっていた。今後もこのような不安定な運営になるという判断をする事もある。今後、協議会で議論を進めて、開園から9日までをどのような位置づけとするか決定できればと思う。雪のある歩道の状況については今までは問題なかった。現在運営の仕方が変わってきている中で、新たな問題が出てくる事もあり、変える必要も出てくる。

ガイド協議会：今までこの時期、遊歩道において、シカの死体があったことはあるのか。

知床財団：歩道上にはなかった。周辺にあったのを回収したことはある。

知床財団：一湖周辺にあったものにヒグマがついたことはあった。

知床財団：安全面と利用面の理想はあるが、現実的にやれることの範囲でどのあたりにするかで、日付を決定していた。

環境省：シカの死体があるのはこの時期のみか。

知床財団：五湖周辺でヒグマがシカの捕殺を行うのはこの時期のみ。

斜里町：自由利用を前提に歩けるとすると管理者はとても気をつかう。この時期、シカは自然死する可能性が日々あり、リスクをゼロにすることはできない。その状況で、ヒグマが出たときに対処できる引率者とまわることで、リスクを回避することができるというのは画期的だと考える。

ガイド協議会: リスクを分散させているだけで、総体のリスクは減ることはない。何か起きた時に、その責任を取るのが、行政になるのかガイド事業者になるということの違いではないか。もちろん、ガイド事業者は責任と技術と保険をかけて行うのは必要だと思うし、商売でない行政がリスクを削減しようとするのはわかる。

環境省: そのようにリスクが高い状況ならば、行政としての判断は、閉鎖をするということ。なぜこのシステムなのかという、なるべくリスクを少なくして維持しようとしているから。行政のリスクを下げようとしているわけではない。

ガイド協議会: ガイド事業者側にリスクがあるのはかまわない。利用者に対してリスクがあるという情報を流すようにする。自己責任であるということを伝え、意識を変える必要がある。どのような知識があるなら知床に入ることができるようになるのかを考えるようにする。長くにわたって、やってきたことを変えるのであれば、もっと丁寧に説明してほしい。なかなか変わらない。

環境省: 利用調整地区制度導入の前に、元々、ヒグマがよくでる場所に遊歩道をつくってしまったということが高リスクな状況。その状況を少しでもこの制度の導入で、軽減したい。行政のリスクを下げるのではなく、利用者に状況をわかってもらい、利用者のリスクを下げるのが目的。現在議論している期間については、時間がなくなったため、保留になってしまった部分。残っているリスクについて議論している。折り合いをつける必要がある。この期間に対しても、リスクが下がればよいということ。考えについては、同じことで、利用者に対してのリスクをいかに下げようにするかということ。

ウトロ地域協議会: 国立公園の利用で、自己責任だと危ないからと管理し、設備を整えると、自然がどんどん壊されていくことに繋がるのでは。自由利用には自己責任があるということをどこかで出さなければならないのでは。

環境省: 自己責任において、リスクはつきものである。しかし、多くの利用者はそのことをわかっていない状況。大事なのは、自己責任であるということを伝えるようにしているかどうか問われる。自由利用期にすると自己責任であるという情報を出していない。植生保護期やヒグマ活動期にすることで情報を出すことができる。

ガイド協議会: 情報の提供はしていかなければならない。知床から、自己責任であることを発信し、国民性を変えてやるような気持ちで。説明すれば、利用者は理解してくれる。

環境省: 今説明していただいたことが、この利用調整地区制度だと考えられる。ここ知床が先進地である。

ガイド協議会: 制度が始まったことによって、本来入ることの出来なかった場所に入れるようになったのか、お金を払わないと入れない場所になってしまったのか、捉え方の違いを利用者に伝えるのが大事。制度の説明をすれば分かってくれるが、時間がかかり、簡単な事ではない。

環境省: 今日は結論を出さない。今後この問題について議論を進めていく。

3. 知床五湖駐車場について

環境省：資料3の説明

観光協会：駐車場周辺の調査をやったと思うが、その結果はどうなっているか。

環境省：中間的な結果であるが、図面右側の法面の向こうの湿地には、希少な植生があるが、法面については何株かはあるが、群生はしていない。左側については、湿原の植生がある。法面とその周辺については、大きな群落はない。調査は終わっているが、報告書の提出を待っているという状態である。

ウトロ地域協議会：希少価値のある植物はないということでしょうか。

環境省：特になさそうである。

観光協会：そうであれば、あとは北海道と斜里町にお願いをしたい。

斜里町：希少種がないからどんどん広げてもいい、ということには、すぐにはならない。一つの報告として受け取る。

観光協会：環境省が国立公園の管理計画を変えるという方針でいる。そういった中で、斜里町・北海道は駐車場拡張に向けてどのような方針でいるのか。町と道のこの件に関する意向を伺いたい。

北海道：これから検討を始めるということになると思う。協議会で皆様の意見を聞かせていただき、それを内部調整に持っていくようにしたい。

ウトロ地域協議会：高架木道ができて、そこを自由に利用できるようになってきている。景色のいいところをゆっくり見るためには、駐車時間が長くなるのは必然である。今までと同じではだめだろう。制度として中を変えたのであれば、それに合わせて周りも変えていかないといけない。観光客が減っているからいいが、今がいいからこれからもいい、という訳ではない。このような制度を設定したのであれば、一連したものがないのはおかしい。五湖の整備をしたから、もうお金をかけないということではいけない。地域の経済は観光に依存している。管理計画がこうだから、お金がないから、というのでは地域側は納得できない。できるだけ対応をお願いしたい。

環境省：これだけ利用のあり方を変えているので、管理計画の変更ということも念頭に置いている。駐車場を拡張するのに賛成の方はこの場に多いが、反対の意見を持っている方もいると思う。しっかりと議論をして結論を出すことが必要。

ウトロ地域協議会：理由をちゃんと精査しなければいけない。

環境省：その通りであると思う。議論を積み重ねた上での決定で、直すべきものだということになれば、管理計画を変えるのは環境省として何ら抵抗のあるものではない。一番最初に資料を提供したが、ヒグマ活動期については、震災の影響などで全国的に観光の入れ込み者数は影響を受けている中で、比較上ではあるが知床は堅調な数字である。ヒグマ活動期においては、森の中をゆっくり歩きたいという人はガイド利用をさせていただいて、そうでもない人は高架木道を利用する、という

形で利用者は十分入っているという結論になるだろうと思う。知床はバス利用が少なくなっていて個人利用が増えているが、割と全国の堅調な観光地ではそういった傾向が見られる。ゆっくり楽しみたいという個人旅行者が増えているのは、いい観光地の一つの証である。

ウトロ地域協議会：バスと個人旅行の関係はそうであるかもしれないが、自然遺産というのは、小中高の修学旅行にとって重要な学習の場である。団体での利用は考えていかななくてはならない問題であると思う。バスのスペースが7台しかないということでは厳しい。

知床財団：段差の解消だけでこの問題が解消されるのか。駐車場だけでなく、交通システム自体のことを考えていかないといけないのではないかと思う。

ウトロ地域協議会：その通りで、総体的に考えていかなければいけない。今回、五湖のシステムを変えたので、次には交通システムを変えなければいけないと思う。今やらなければ、できないことだと思う。北海道にはよろしくお願ひしたい。

4. 知床五湖園地外構整備について

環境省：資料4の説明。

知床ガイド協議会：管理車両用の駐車場はどこから入る形となるのか。

環境省：資料4で見ると、管理車両用の下側から入ることになる。

知床ガイド協議会：看板があるが、その脇を通って入るのか。

環境省：看板は臨時のもので、管理車両用の駐車場を使用する時には撤去となる予定。

知床ガイド協議会：地上歩道の入り口がすぐ近くにあるが。

環境省：その通りで、今の状態では動線がぶつかることになる。駐車場の拡張という話もあり、拡張の際には、管理車両用の入口はまた別にしたいと考えている。

知床ガイド協議会：せっかく地上歩道を歩いて良い体験をしたのに、出てきたら左側にすぐ駐車場があるというのでは、興奮めしてしまうというか、終わったという感じがしない。最後のところをもう一工夫してほしい。

環境省：最後の演出については、こちらとしても考えた。最後の広場のところを一区切りして、何か演出ができればということを考えていた。地上遊歩道のルートがまだ決定していないということで、ここについては、今回計画には入れていない。決定すれば、そういった演出に関しても計画に入れて示したい。

ウトロ地域協議会：高架木道の入り口に関してであるが、一面になるのか、段差があるのか。

環境省：資料の2枚目に見えている線は、今の段差である。実際には、整備後は平らにする。

ウトロ地域協議会：もう一つ、バイクの駐車スペースが書いていないが、どこになるか。バイクの数も増えているし、今までの場所では足りないと思う。乗用車にはちゃんとしたスペースがあるのに、バイクは隅に置いていけというような感じで、バイクに乗っている利用者にはあまり印象がよ

くない。バイクの駐車スペースに関してはどう考えているか。

環境省：駐車場拡張についても継続審議となっているので、バイクのスペースがどこにどれだけ必要か、専用のスペースが必要か、バイクと車の部分を合わせて考えるのか、など駐車場全体の計画として考えることが必要だと思う。それはこれから議論していきたい。今回の整備で、今後の駐車場の問題が制限されてしまうのは良くないと思っており、今回の外構整備としては現在の場所をそのまま使用してもらうことになる。

ウトロ地域協議会：バイクの人も車の人と同じように大切にしてほしい。

しれとこ・フォーラム21：サイン計画図のフィールドハウス看板、右下に地上歩道入口の看板があるが、利用者は「フィールドハウス」よりも「地上遊歩道入口」を探すのではないか。「地上遊歩道入口」をより目立つようにした方がいいと思う。また、資料の6ページの看板、「地上遊歩道入口」と「フィールドハウス」の文字は大きさが違うが、同じ大きさにして「地上遊歩道」と「フィールドハウス」が同じものという印象を持たせるような示し方がいいと思う。8ページの展望台の看板は「展望台」が主になるのか。「高架木道」の方が主だと思うので、「高架木道（展望台）入口」又は「高架木道入口」とする方がいいのではないか。駐車場にタクシー等とあるが、「等」とは何を表すのか。

環境省：利用者が地上遊歩道入口を探すというご指摘は、その通りであると思う。そこで、ポールサインで、地上遊歩道入口はどこか、と駐車場から確認できるようにしている。ポールサイン上で、「フィールドハウス」と「地上遊歩道」が同じ大きさの文字では、認識しづらくなるかと思い、このような形にした。また、ガイドさんは「フィールドハウスに集合してください」と案内している場合も多く、どちらの建物がフィールドハウスか、という混乱を解消するため、建物には「フィールドハウス」という看板を設置するという計画である。高架木道についてだが、「高架木道」だと利用者がイメージしにくいと思った。「展望台」という言葉の方が誰にでもより分かりやすいのではないかと考えた。タクシー等というのは、営業車両などの緑ナンバーのものを含むということである。

しれとこ・フォーラム21：サインポールに「地上遊歩道入口」として利用者をフィールドハウス方向に促すのであれば、フィールドハウスにも同じように「地上遊歩道入口」と書いた方がいいのではないかと思う。例えば、ポールサインにある人が歩いているマークを、フィールドハウスの「地上遊歩道入口」の看板にも付けて色も同じにするなど、対応があっても良いと思う。タクシー等と、特別扱いする必要があるのか疑問だ。また、身障者用のスペースがあるが、そこに普通車がとめることもあるだろうと思う。そこは、どういう管理をするのか。

公園財団：駐車場には人がついているので、身障者のところに普通車がとまることはない。バス・タクシーは複数のお客様を送迎する営業者ということで最低限の確保をしている。

しれとこ・フォーラム21：ガイドの車もタクシーの場所にとめられるのか。

公園財団：それはできない。

知床ガイド協議会：看板は時期によって変えることはできないか。植生保護期には「地上遊歩道入口」は大切な看板であるが、ヒグマ活動期の看板には必要ないと思う。ヒグマ活動期には、フィールドハウスに集合と統一にして、植生保護期は地上歩道入口に入るという形にできたらいい。

知床ガイド協議会：看板については、個別名称を大きくして、内容を小さくするということで統一したらどうか。看板は掛け替えられるものなど、工夫ができたらいい。

知床ガイド協議会：「地上遊歩道」を統一にして、その後ろに「入口」と「受付」を変えられるというのはどうか。

環境省：スチール製の枠に、木製の板を設置する形となっているが、技術的な部分もあり業者とのやりとりが必要になると思う。実際に今年度できる工事は限られているが、設計期間は9月いっぱいとなっている。現段階で決定できないところは、環境省に一任ということにさせていただければありがたい。

環境省：入れ替えの看板の件については、構造上や耐久性の問題などがあるので、前向きに検討をさせていただくが、できるかどうかはお任せという形にさせていただきたいと思う。

環境省：説明が抜けていた部分があったので、追加で説明をする。広場の部分だが、脱色アスファルト舗装に変更している。色合いについては駐車場とは別にする。決定はしていないが、茶系のものにする予定である。パーゴラには強化ガラスを取り付ける予定でいたが、費用が高額なため普通の屋根を取り付けることにしたい。屋根を取り付けても暗くなる訳ではないので、問題ないと考えている。

知床財団：工事期間はいつになるか。

環境省：北海道で旧トイレの撤去を10月中旬から行っていただく予定。そこから11月いっぱいまで区画線の工事、環境省としては11月上旬から年度いっぱいまで工事をする予定であるが、冬も行うかどうかは調整中。今の段階では3月まで行う予定でいる。

環境省：お任せくださいというところもあるが、時間を少しいただきながら進めていきたいと思うので、皆様にはご了解をいただければと思う。

5. その他

環境省：現在は、植生保護期で運用をしている。今までの状況などについて、知床財団から報告をお願いしたい。

知床財団：植生保護期は、好調な数字で推移している。8月の一ヶ月で約3万人弱の方が利用している。個人利用の約半数は地上遊歩道を選択しているようである。まだ、制度を知らずに来る人もいるが、制度を理解した上で地上遊歩道を選択している人も多くいる。まだ多くの課題があるし、受付も改善の必要があるのは事実であるが、予想していたよりもクレームは少なく、予想していた

よりも多くの利用者に満足していただいている、と感じている。

公園財団：8月の駐車場について報告させていただく。駐車場の入り込みは8月になって伸びてきていて、前年比84%となっている。5月は30%減、6月は25%減、と実数としては右肩上がりで利用者は増えている。年間のトータルとして見た場合には、結果的には良い数字になるのではないかと思う。次長がおっしゃたように知床は魅力があるところということになるのだろう。しかし、制度改正によって、駐車場の大小にかかわらずすぐ満車になってしまっている。9時か9時半には満車である。後は、車が出た分だけ入るという状態が続く。滞在時間が長くなったため、回転数が落ちている。利用者数は伸びてはいるが、前年度との比較では落ちているのは事実。駐車場の拡張の問題については、皆様に議論をしていただかなくてはならない問題であると感じている。今のままでは、お客様に渋滞でご迷惑をかける日数が多くなっていくだろうと推測する。公園財団としては、特に段差解消、バイクの問題についても議論を進めていただきたいと思います。

20:30 終了